



花さき山



タイトル文字: 滝平二郎



【おはなし会】

6月4日 11:00~11:30

6月19日 15:00~15:30

スタンプカードをもらって、スタンプを集めよう! ちったまると...?

【ブックスタートクラブ】

毎週水曜日は視聴覚室開放 day♪ (9:00~17:00)

子育て相談や絵本の読み聞かせ⇒6月1日、8日、15日、22日

※1日、8日、22日→10:00~, 15日→11:00~

☆親子体操教室☆

~ウオンバット・エクササイズ~

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 6月29日(水) 午前10:30~

乳幼児のお子さんと一緒に体を動かして、気持ちもリフレッシュ!

健康についての相談もできます☆

音読会

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 6月7日(火)、28日(火)

午前11:00~

今日は、『がまの油』と一緒に、声に出して読みます。脳と心に刺激を与えましょう!

映画会&紙芝居

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 6月25日(土) 午前10:30~

〈紙芝居〉

『シンドバッドのぼうけん』

『アラジンとまほうのランプ』

〈映画〉

『ポパイ』2本立て (上映時間: 38分)

※事前申し込みは不要です。

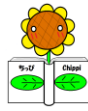
壁デコ!

6月は壁デコの月です☆一緒におりがみで図書館の玄関を飾ろう♪

場所: 明野図書館 視聴覚室

日時: 6月26日(日) 午後2時~3時





「樋口一葉と筑西市の人々」

桐原光明

みなさん、樋口一葉という女性を知っていますか。あの五千円札でおなじみの人物です。

彼女は明治20年代に活躍した近代女流文学のフロンティアです。24才の若さで結核のため、惜しまれながら世を去りました。しかし、死ぬ前の14ヶ月で、奇跡的に「たけくらべ」「にぎりえ」「大つごもり」「わかれ道」「十三夜」など近代文学を代表する名作を次々に生み出しました。どれも珠玉の名品です。日本文学史の中で、時代を超えた古典です。

どこが見所かといいますと、貧困と束縛にあえぐ下層階級の女性の自由解放、自立という近代文学特有の問題を扱い、人間性の解放を正面から取り上げたことです。樋口一葉以前には明確に表現しなかったテーマです。

社会的身分による束縛、貧困がどれだけ人間とりわけ、女性を不幸にしているか、どうしたら、女性が遊女以外の仕事に就いて社会的自立がなされるか、家庭における男女の役割について、恋愛や結婚、離婚についても多くの示唆に富む数々の作品を作りました。しかも、優美、鮮麗、典雅にして、平安朝文学の伝統を継承した文章運びは現代文学者には真似の出来ないものです。これが樋口一葉文学の特徴です。

そんな樋口一葉ですが、筑西市と深い縁があるのをご存じですか。

ある時、私は郷土史の話題を探して、「広報しもだて」を見ていると、菊池豊元市長が「一葉と下館駅」と題する随想を発表していることに目が止まりました。調べるとおもしろい事実が分かりました。

樋口一葉(奈津)、くに姉妹、母多喜が一葉の執筆原稿料では食べていけないので、筑西市宮後出身の礪川堂文房具店経営西村釧之助せんのすけに援助されていたこと。

下谷龍泉寺町で駄菓子屋を開業した時の資金も提供されていたこと。

西村釧之助せんのすけから譲られた礪川堂文房具店を経営した妹くにとその伴侶、筑西市海老江出身吉江政次が一葉の文学作品、一葉日記などを大切に保存し、守り通したので、一葉作品が散逸せずに残ったこと。

樋口一葉に和歌を教え、小説作家になるきっかけを与えたのは中島歌子の歌塾「萩の舎」で、中島歌子は水戸藩尊王攘夷派林忠左衛門の妻であること。

樋口一葉に直じかに国文学を学び、一番弟子だったつくば市北条太田屋出身穴沢清次郎、宮後の西村きく、小三郎、下妻市黒駒の飯村丈三郎などが「一葉日記」に散見していること。

これらの事実から、一葉の生活を支えた功労者は西村釧之助せんのすけ、くにを支えたのは吉江政次、一葉文学の人と作品を支えたのは穴沢清次郎と中島歌子、家族ぐるみで付き合った樋口家と西村家との構図が浮かび上がります。

それだけに、今後の課題としては、西村家、吉江家、穴沢家、飯村家に「一葉」ゆかりの品々が隠れていないかという興味です。未発見新資料が出現するのではないかと強く期待します。

(きりはらみつあき/郷土史講師・知正学者)